

平成8年6月



学校を見直す

広島市教育センター次長 升尾好博

子どもにとって学校というところは、家庭や地域以外にも自分を愛してくれている人の存在を知るところである。それだけで、生涯の大きな財産となり得るものである。

しかしながら、今日の子どもたちの状況をみるといじめを苦にして自ら尊い命を絶つという痛ましい事件が後を絶たず、また、不登校も増加傾向にあるなど深刻である。学校、家庭、地域社会及び行政あげてこれらの問題の解決に取り組んでいるところであるが、学校においても、一層子どもの側に立つ教育を進める必要があろう。

今こそ子どもたちが喜んで登校し、生き生きと活動できる学校が求められている時はない。その学校とは端的に言って、子どもにとって楽しい学校ということである。そこで、楽しい学校づくりに当たって次の視点から教育実践を見直す必要があろう。

○子ども観を見直す

子どもは本来、様々なよさや可能性をその内に秘め自ら伸びようとする力をもった存在であると考え、その立場に立って教育活動全体を見直す必要がある。

○ゆとりを見直す

子どもにとっての学校は、ゆとりがあってほしい。それは時間的なものだけではない。熱中できるものに取り組み、試行錯誤を繰り返しながら成し遂げていく過程で味わう充実感もまた、楽しさであり、ゆとりということである。

○短所是正を見直す

教育とは、もともと一人一人を伸ばす営みに外ならない。短所や苦手なことの是正だけでなく、一人一人の子どものよさや可能性を見だし、それを伸ばしてやることでもある。

○授業を見直す

学習とは、本来一人一人のためにあるものである。一人一人が願いを持ち、全力を投入して願いを実現して喜びを味わってこそ、その学習が生きるといえよう。教師主導の授業から子どもが主体的に学ぶ授業に一層転換していく必要がある。

子どもにとって楽しい学校づくりをめざすとき、学校が今の子どもに不適應になっていないかという視点から見直す必要がある。そこから、一人一人の子どもが光り輝く学校づくりが始まるといえよう。

研究紹介

広島市の子どもの平和意識

—共同研究「広島市の子どもの平和に関する意識調査」から—

広島市教育センター 共同研究グループ

広島市の子どもの平和に関する意識調査は、広島市が被爆50周年を迎えるに当たり、これまでの平和教育を考える節目ととらえ、平成6年度から2か年の計画で取り組んできたものです。ここでは、調査結果の一部を紹介します。

調査は次の要領で行いました。

・調査対象

小学生：第4学年～第6学年
中学生：第1学年～第3学年

・調査人数

広島市立小学校16校 1,582人
広島市立中学校9校 948人

・調査期間

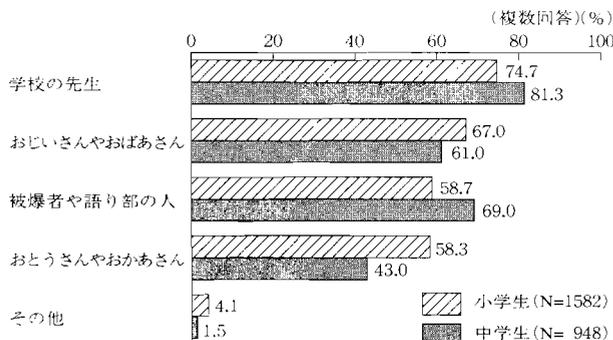
平成7年7月11日～20日

○ 平和学習の経験について

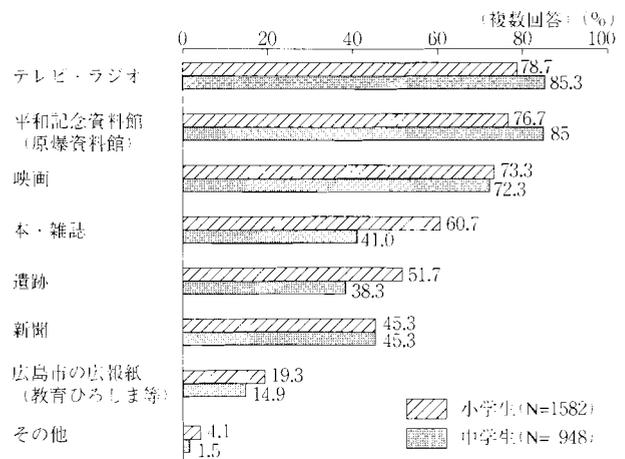
学校においては、8月6日に向けてH頃から語り部の話や映画鑑賞、施設見学など様々な内容を取り入れた平和学習が行われていることが分かりました。

特に、語り部の話や映画、平和記念資料館の見学など、実際の体験談や映像は、子どもに強い印象を与えており、原爆について学習するうえで重要な役割を果たしているといえます。

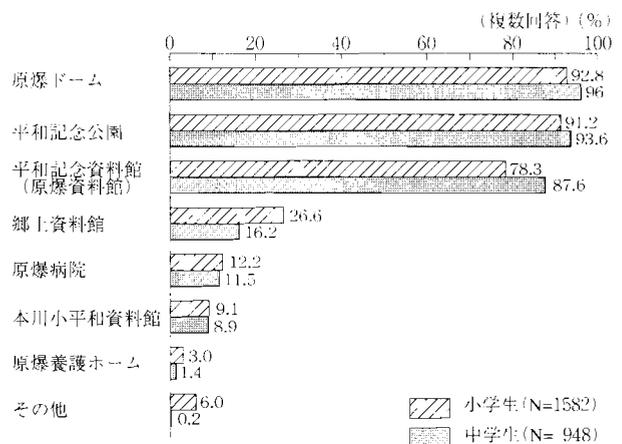
設問例1 あなたは、原爆のことについて誰から聞きましたか。



設問例2 あなたは、原爆のことについて何から見たり聞いたりしましたか。



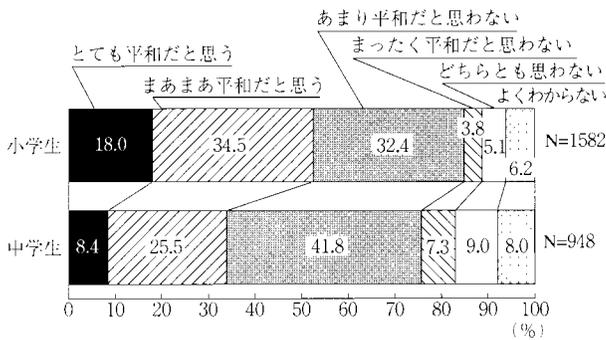
設問例3 あなたは、次の施設や場所に行っただけあります。



○ 平和への認識について

約40%の子どもが現在の日本を「平和である」と思っており、また約40%の子どもが「平和でない」と思っていることが分かりました。そして、「平和」という概念については、主に戦争や犯罪があるかないかということにとらえているようです。

設問例1 今の日本は、平和だと思いますか。



○「とても平和だと思う」「まあまあ平和だと思う」と答えた主な理由
自由記述 (小・中全体) N=1151 (%)

- 戦争がないから45.3
- いじめ、様々な事件や問題はありますが、まあまあ平和である.....26.4
- 生活物資や食料が豊富だから14.3
- 普通に安心して生活できるから9.9
- 他の国と様々な問題はありますが、まあまあ平和である1.3
- 助け合い協力して生活しているから1.1

○「あまり平和だと思わない」「まったく平和だと思わない」と答えた主な理由
自由記述 (小・中全体) N=1035 (%)

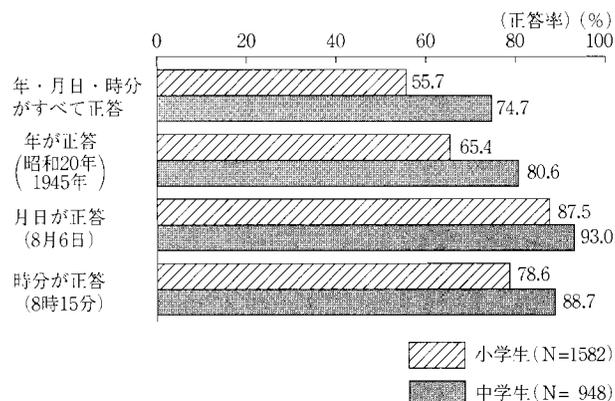
- 犯罪や事件があるから77.1
- いじめや自殺があるから7.0
- 世界の中では戦争や核兵器などの問題があるから6.7
- 環境破壊、交通事故、公害などの問題があるから4.8
- 自然災害があるから4.0
- 様々な差別があるから2.7

○ 平和教育の目標にかかわることについて

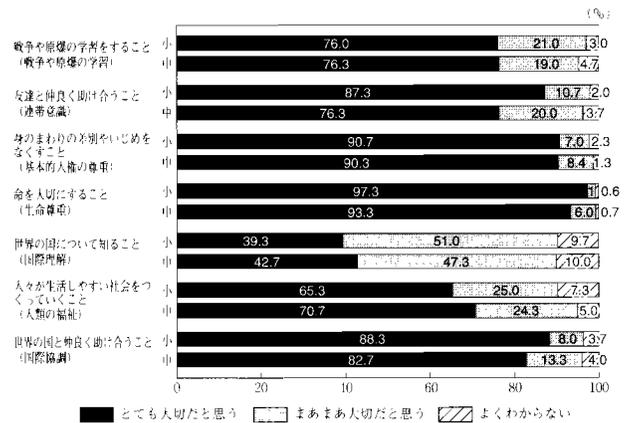
小・中学生とも広島への原爆投下年月日をよく知っていることや原爆投下反対の気持ちを強くもっていることが分かりました。

また、将来平和のために役立つことをしてみたいという「平和実現への貢献」の気持ちも強いことがうかがえます。

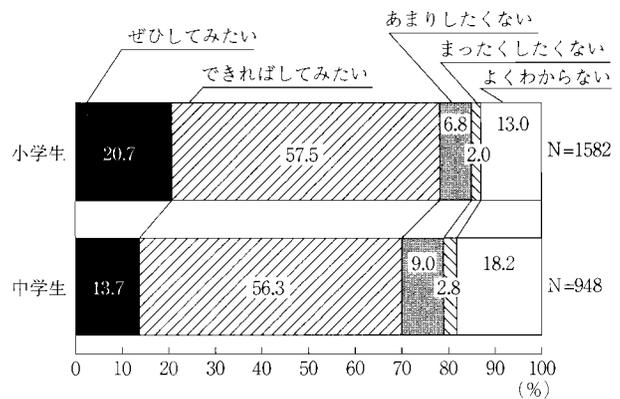
設問例1 広島に原爆が投下されたのはいつですか。



設問例2 これから平和な社会をつくらっていくために、次のことはどのくらい大切ですか。



設問例3 あなたは、将来、平和のために役立つことをしてみたいと思いますか。



◎ 今後の平和学習に向けて

- より身近な人、遺跡、施設を活用した参加型・体験型の学習を一層充実させていく。
- 小学校では、平和教育の基盤となる意識や態度（生命尊重、基本的人権の尊重など）を十分育て、中学校では、科学的認識（戦争の加害・被害面など）を十分深める指導をしていく。
- 「ヒロシマ」を主体的に発信することができる子どもを育てていく。

詳細については『研究紀要第16号』（広島市教育センター刊行予定）に示しています。今回の調査結果を参考にして、各校、園、施設において平和教育がより推進されることを願っています。

担当 主任指導主事 越智 文嗣

指導主事 木村 正信 三原 裕隆

「育てていきましょう」

○ 問題解決の指導と自己評価力

算数科(小)

算数科においては、子どもが見通しをもって学習を進め、筋道を立てて考え数理的に処理する能力と態度を身に付ける「問題解決」の指導の充実が求められています。

各学校では、特に、主体的な問題解決を促す課題の設定や子どもの自力解決を支援する操作活動に様々な工夫がみられます。

今後は、自力解決の場や解決方法の検討の場において、「この方法で本当によいのだろうか」「なぜ、この方法でうまく解決できたのだろうか」「もっとよい考え方はないのだろうか」、また、まとめの場において、「今日はどんな学習をしたのだろうか」など、子ども自身が自己の解決の過程や結果を振り返り、ノートにまとめ、評価できるような力を育てていくことが必要でしょう。

「取り入れてみましょう」

○ 美術館を利用した鑑賞指導

図画工作・美術科(小・中)

最近、美術館を利用した創意に富んだ鑑賞指導の実践が研究会や紀要等で報告され、関心が高まっています。鑑賞指導の成果を十分に上げるためには、授業のねらいやガイドの内容、ワークシートづくり等について美術館の学芸員と十分に打合せをし、連携を図ることが大切です。広島市現代美術館を利用した鑑賞指導の手順や内容を紹介します。

- ①美術館に電話で依頼(目的,日時,児童生徒数)
- ②減免申請提出
- ③学芸員との打合せ
- ④展覧会又は作品の下見,資料収集
- ⑤事前授業(興味・関心,予備知識)の計画
- ⑥ワークシートの作成
- ⑦美術館での鑑賞
- ⑧まとめの授業(発表会,表現など)の計画

美術館を利用し、本物に直にふれる鑑賞指導を取り入れてみましょう。

「取り入れてみましょう」

○ 「構成主義学習論」と理科教育

理科(中)

近年、「構成主義学習論」に基づいた授業実践が目されるようになってきました。

構成主義学習論では、生徒が科学的概念を理解していく過程は構成的あるいは生成的な過程であり、獲得された科学的概念は生徒一人一人に固有のものであるととらえます。

したがって、ある実験結果に対して従来の学習指導では誤りとみなされた生徒固有の認識方法が、構成主義学習論においては生徒の素朴な概念として大切にされることとなります。すなわち、生徒がその固有の概念をより普遍的なものへと再構成してゆく過程を教師が援助することが求められるのです。

こうした構成主義学習論の考え方を取り入れて、理科の授業をより一層充実したものにしてみたいかがでしょうか。

「心がけてみましょう」

○ 学習意欲と共感的理解

生徒指導

子どもが意欲をもって学習するようになるには、「わかる授業」を展開するとともに、授業の中で子どもの内面を理解するための共感的理解に一層心がけることも必要です。

共感的理解とは、とすると教師が陥りやすい「今は、～すべき」「～でなくては困る」といったいわゆる「教師の立場」だけで子どもを見たり、とらえたりするのではなく、「今、子どもは何をどう感じているのかを理解し受け入れる」ことです。これは、子どもの表現、身振り、態度、言葉などによって理解が可能となるものです。

共感的理解を心がけることで、子ども自身が「大切にされている、認められている、関心を持たれている」と感じたら、やがて学習への意欲も生じてくるものです。

教育実践のアイデア

平成8年度

研修講座始まる

本年度は、次のようなことを考慮して、132の研修講座を設けています。

- 指導講座の日数を3日から2日に変更
研修により参加しやすくなるように、指導講座の日数を3日から2日に変更しました。また、講座の内容・形態についても工夫しています。
- 講座の新設
生徒指導事例研究講座、中・高理科実験講座、小学校生活科実技講座を新設しました。
いじめ問題への対応と指導、理科実験における教材の工夫、そして生活科の実技を中心とした具体的な展開について研修できます。
- コンピュータ講座の充実
教育用ソフトウェアライブラリの検索と試用に関する研修ができます。

- 県外講師の指導による講座の充実
本年度も研修講座については、県外より講師を招き、一層の充実を図っています。その中から学習指導講座の紹介をします。

講師 水越敏行 関西大学教授

演題 「個に応じた学習指導」

日時 平成8年10月21日(月) 14:30~16:45

場所 広島市教育センター

対象 小・中・養護学校教員(経験4・5・6年次)
講師のプロフィール

◇ 教育学博士、教育方法学専攻

◇ 著書

「個を生かす教育」「授業改善の視点と方法」等

研修を終えて

「生き方を考える 進路学習へ」

広島市立大州中学校教諭

廣川 直



「学級活動における自らの生き方を考え主体的に取り組む進路学習の指導の在り方」という主題を設定し、六か月間研修をしました。進路に関する生徒の意識調査の結果を踏まえて、職業観や学習観などの価値観の形成に重点を置いた題材及び指導過程の工夫について研究しました。その結果、生徒にとって身近な保護者や地域で働き学ぶ人々を教材として取り入れることによって、生徒は主体的に進路学習に取り組み、将来の生き方についての価値観に少し広がりや深まりを持つことが分かりました。

半年間、学校を離れて研修に打ち込めたことは、とても有意義であったと思います。ご指導いただいた先生方、また、温かく見守っていただいた方々に深く感謝しております。

研修を終えて

「環境構成の 工夫を」

広島市立口田幼稚園教諭

石田 栄子

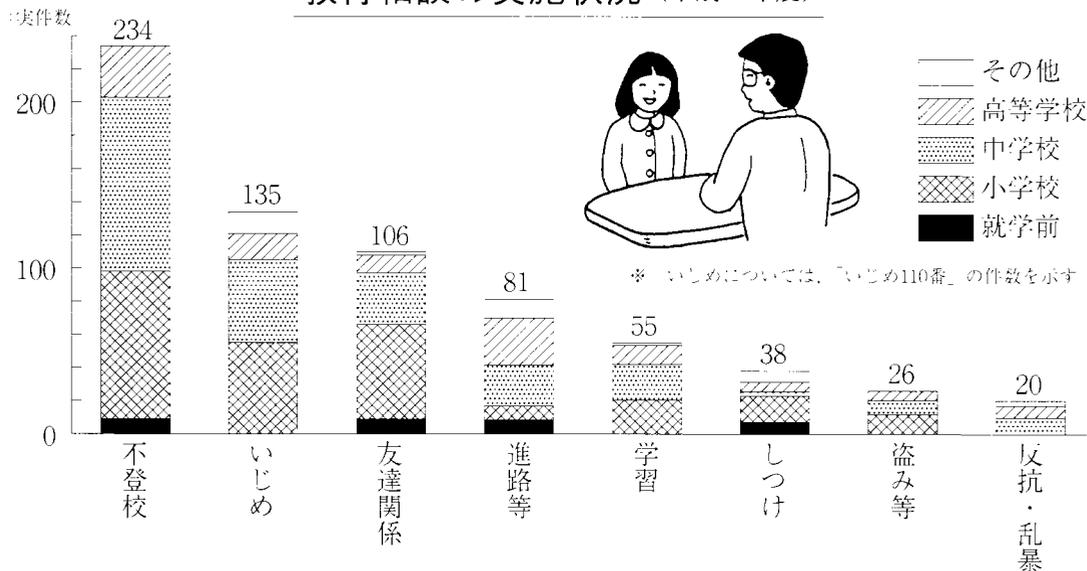


幼児は遊びの中で感じたことや考えたことを表現し楽しめます。また、表現意欲を持ったりします。そこで、表現する喜びを十分に味わえる環境の工夫について、粘土遊びに着目し研究に取り組みました。研究主題を「粘土遊びにおける環境構成の工夫に関する一考察」—表現する喜びを味わわせることを目指して—としました。幼児の欲求や興味に応じた材料や用具を設定し粘土遊びを計画・実施し、その過程での幼児の活動の様子から分析・考察しました。その結果、教材の提示の仕方や繰り返し経験できる環境構成の工夫をすることの大切さを改めて痛感しました。

ご指導いただいた先生方のおかげで、有意義な三か月でした。深く感謝しております。

教育相談室から

教育相談の実施状況（平成7年度）



依然として不登校やいじめの相談が多い状況があります。不登校の相談事例の中には、いじめが絡んでいる場合もありますので、日ごろから児童生徒理解を図りながら援助・指導していくことが大切です。

【いじめの相談を受けたときのかかわり方】

〔中1 A子〕母親からの相談電話

中学校1年生の娘（A子）のことで、入学してからまもなく、同じクラスのB子とその仲間の数人から、「あっちへ行って」「何見てるの」など、嫌なことを言われたり、無視されたりするようになりました。

6月ごろからA子は、「学校に行きたくない」と言い出し、朝起きるのが遅くなり、時々欠席するようになりました。登校するときも、カバンを投げたり扉を蹴ったり、玄関の近くで涙を流している姿も見られます。

この様子を見て、「お母さんが先生に相談してみようか？」とA子に言っても、「それだけはやめて」と答えるだけです。

しかし、あまりに心配なので、担任の先生にこのことについて相談したところ、先生は「今、そのようないじめはクラス内にはないと思います。A子さんも学校では、そんなに深刻には見えないし… お母さんが神経質になりすぎているのではないですか」との返答でした。

これから一体、どのようにしたらよいのでしょうか。 [いじめ110番の相談事例から]

この事例は、A子さんが中学校に入学して、級友から嫌なことを言われたり無視されたりすることに対して、母親が心配になり相談してきたものです。母親は、担任に相談していますが、母親の不安な気持ちを受け止めているでしょうか。母親が担任に相談しようとしたときには、かなり迷いがあったかも知れません。そのような母親の気持ちを理解し、しっかりと話を聞く姿勢が必要です。また、今後どのようにかかわっていくかを具体的に示すことも大切でしょう。

このように、母親やA子さんのつらい気持ちを共感的に理解しながら、かかわっていくことが大切です。そして、援助・指導においては、学級担任だけでなく、他の教師とも連携を図ることが重要です。

* いじめについての相談 「いじめ110番」 ☎(082)223-4420

センター利用案内

教育用ソフトウェアライブラリ

このたび、教育センターでは教育用ソフトウェアライブラリを4階に開室しました。コンピュータ教育の充実のため、ぜひご利用ください。

対象

広島市教育関係職員

利用日時

月～金 9:00～17:00

※ 利用日時は変更することがあります。

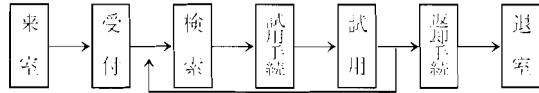
利用内容

- 教育用ソフトウェアの検索と試用
- 教育用ソフトウェアの活用に関する相談
- 教育用ソフトウェアの開発
- 教育関係機関のデータベース検索 等

利用方法

ソフトウェアの検索と試用の手順は次のとおりです。

- ① 受付で必要事項を記入し、利用カードを受け取る
- ② 試用するソフトウェアをコンピュータ等で検索する
- ③ 検索したソフトウェアを利用カードとともに受付に申し出て、ソフトウェアを受け取る
- ④ ソフトウェアをコンピュータで試用する
必要に応じて検索と試用を繰り返す
- ⑤ ソフトウェアを返却する
- ⑥ 受付で必要事項を記入し、利用カードを返却する



教育関係資料

研究・研修や授業に役立つ図書、教育研究資料、視聴覚資料等をそろえていますので、ご利用ください。

対象

- 広島市立学校(園)教職員及び社会教育関係職員

利用日時

月～金 9:00～17:00

※ただし、3月の月始めから1週間は整理期間のため利用できません。

利用内容

- 図書の閲覧及び貸出し
- 教育研究資料(集録、紀要、要覧等)の閲覧及びコピー
- 視聴覚資料(ビデオテープ、録音テープ、映画フィルム等)の視聴及び貸出し

利用方法

- 貸出し

・ 図書(3階図書資料室)

個人 3冊まで/2週間以内

団体 10冊まで/3週間以内

※ 教育研究資料の貸出しはしていません。

・ 視聴覚資料(4階ソフトウェアライブラリ)

個人・団体 3点まで/1週間以内

- 視聴覚資料の視聴を希望する場合は、職員に申し出てください。

収集している図書・資料は、各学校・園・社会教育施設に配布している『教育図書・資料目録』『教育映画フィルム・ビデオ教材目録』をご覧ください。

教科書センター

小・中・高・養護学校の教科書を展示しています。閲覧希望の方は、職員に申し出てください。

展示場所

3階ロビー

利用日時

月～金

9:00

～

17:00

教育相談

子どもの教育上の問題や悩みについての相談に応じ、その解決のための助言や援助をします。

対象

広島市に在住する子どもとその保護者及び教育関係職員

利用方法

事前に電話で申し込んでください。

いじめ110番

広島市教育センター内
☎(082)223-4420

相談日時

月～土 9:00～17:00

相談内容

いじめについての相談

教育相談室

広島市教育センター内
☎(082)223-4152

相談日時

月～土 9:00～17:00

相談内容

不登校、反抗・乱暴、学習、友人関係、進路、しつけなどについての相談

教育相談室(分室)

広島市児童総合相談センター内
〒732 広島市東区光町二丁目15-55
☎(082)264-0422

相談日時

月～金 9:00～17:00

相談内容

障害をもつ子どもの教育上の悩みについての相談

教育センターひろば



教員長期研修生 (平成8年4月～9月)

本年度前期は次の6名の先生方が、それぞれの専門分野で研修を進めておられます。

- 算数科教育：藤川 照彦 (五日市南小学校)
- 理科教育：堂道 和雄 (早稲田小学校)
- 国語科教育：清信 環 (高取北中学校)
- 英語科教育：古本 久直 (城山中学校)
- 教育相談：村本 淳一 (安佐南中学校)
- 理科教育：竹原 年宏 (安佐北高等学校)

教員長期研修研究員 (平成8年4月～平成9年3月)

- 校内研修：川西 史樹 (可部小学校)
- 校内研修：中村 耕三 (観音中学校)

教員の異動

- * 離退任** ～在任中はお世話になりました～
 - 福原 紘治郎次長 (舟入高等学校へ)
 - 岡本 和之主幹 (全国都市緑化ひろしまフェア実行委総務課へ)
 - 財津 伸子主任指導主事 (安佐中学校へ)
 - 江田 英俊指導主事 (中広中学校へ)
 - 河野 禎 研修指導員 (退職)
 - 寄重 弘光 研修指導員 (退職)
 - 渡邊 了夫 教育相談員 (退職)

- * 就任** ～どうぞよろしく～
 - 升尾 好博次長 (市教委学校教育部指導課から)
 - 入江 哲男主幹 (財・国際交流協会総務課から)
 - 森下 幸子指導主事 (己斐中学校から)
 - 井坂 雅浩指導主事 (吉島東小学校から)
 - 前田 憲壮指導主事 (戸坂中学校から)
 - 今村 理恵主事 (南区役所市民課から)
 - 山岡 秋夫 研修指導員 (口田東小学校から)
 - 久保野 哲也 研修指導員 (戸坂中学校から)
 - 谷本 嘉昭 教育相談員 (瀬野小学校から)
 - 竹本 富子 教育相談員 (上緑非幼稚園から)
 - 沖田 稔 教育相談員 (基町高等学校から)

部署	職名	氏名	担当業務
事務	所長	新居 俊之	所務総括
	次長	升尾 好博	所務管理・執行
総務課	主任	入江 哲男	部内総括、予算、
	主事	小笠原 紀美子	出納、文書管理、総務
	主事	今村 理恵	施設管理、情報、総務
	主事	越智 文副	部内総括、理科
研修課	指導主事	福原 正明	図画工作科、美術科
	指導主事	中山 千恵	幼稚園教育
	指導主事	木村 正信	音楽科、体育科、生活科
	研修指導員	松崎 守弥	外国語・英語科
教育研究部	主任指導主事	山岡 秋夫	理科
	指導主事	吉竹 耶昭	国語科、社会科、道徳
	指導主事	森下 幸子	国語科
教育情報部	主任指導主事	尾形 慎治	算数科、数学科
	指導主事	神津 佳男	国語科、英語科、生活科
	指導主事	井坂 雅浩	音楽科
	指導主事	松浦 俊雄	理科、同和教育
広報	研修指導員	前田 憲壮	家庭科、技術・家庭
	研修指導員	伊藤 俊文	家庭科、技術・家庭
	図書資料室嘱託	久保野 哲也	教育工学、視聴覚教育
教育相談部	主任指導主事	大下 千賀子	図書資料関係事務
	指導主事	松田 了二	国語科、生活科、道徳科
	指導主事	三原 裕隆	生徒指導、教育相談
	指導主事	中尾 秀行	障害児教育、教育相談
	教育相談員	正木 史生	教育相談
	教育相談員	高田 博子	教育相談
	教育相談員	片岡 泰幸	教育相談
	教育相談員	谷本 嘉昭	教育相談
教育相談員	竹本 富子	教育相談	
教育相談員	沖田 稔	教育相談	



表紙絵 広島市立城山中学校教頭 堀田 誠治
 題字 広島市立仁保中学校校長 益永 瑞夫

編 集 後 記

若葉が雨に濡れそぼつ美しい季節となりました。今年度も皆さんの教育活動のお役に立つ広報活動を目指していきたいと思います。ご感想、ご意見などお聞かせください。